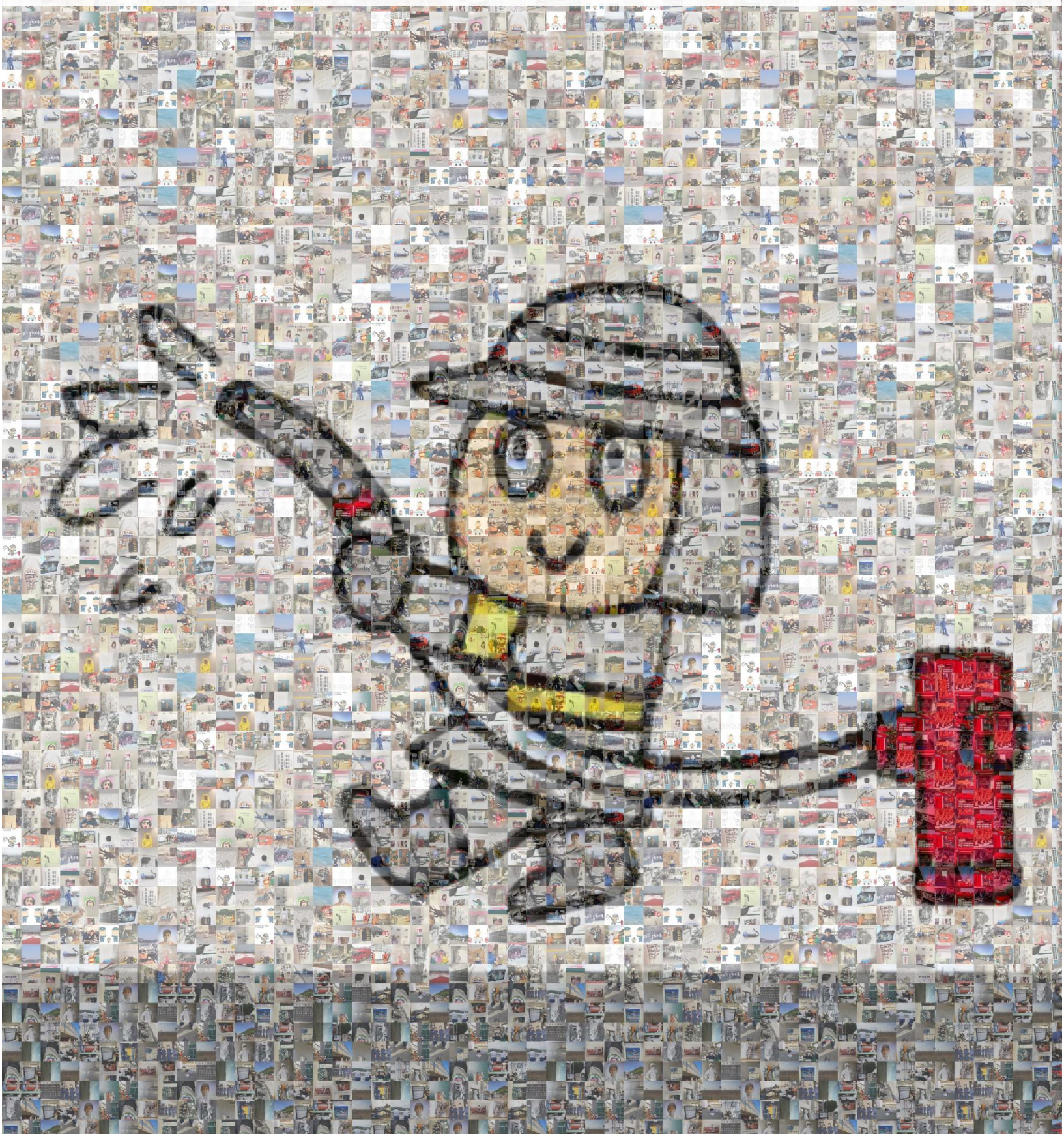




逗子消防70年のあゆみ

「逗子市消防本部・消防団発足70周年記念誌」



逗子消防70年のあゆみ

「逗子市消防本部・消防団発足70周年記念誌」

笑顔・・・かがやく未来のまち ずし





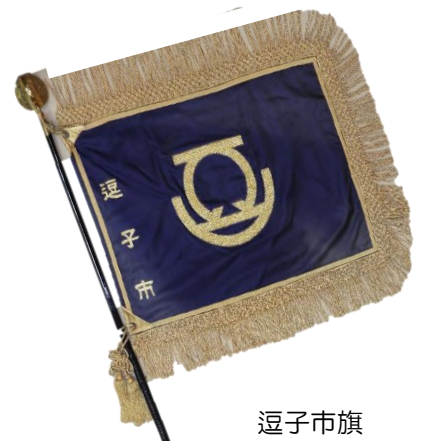
逗子消防





70周年記念





逗子市旗



名前「シズオ」どんぐりの妖精
2006年(平成18年)に登場した
逗子市の広報キャラクター

地域の概要

逗子市は、東経139度35分01秒、北緯35度17分32秒に位置し、東西6.96キロメートル、南北4.46キロメートル、周囲21.20キロメートル、面積約17.28平方キロメートルで、神奈川県
の南東、三浦半島の頸部にあたり、東は横須賀市、北は横浜市、北西は鎌倉市、南は葉山町に
それぞれ境を接し、西は相模湾に臨んでいます。

「都市宣言」

(昭和49年4月15日告示)

青い海と みどり豊かな 平和都市

私たち逗子市民は、青い海と、みどり豊かな自然を愛し、輝く太陽のもと、
明るい、平和なまちづくりにまい進することを宣言します。

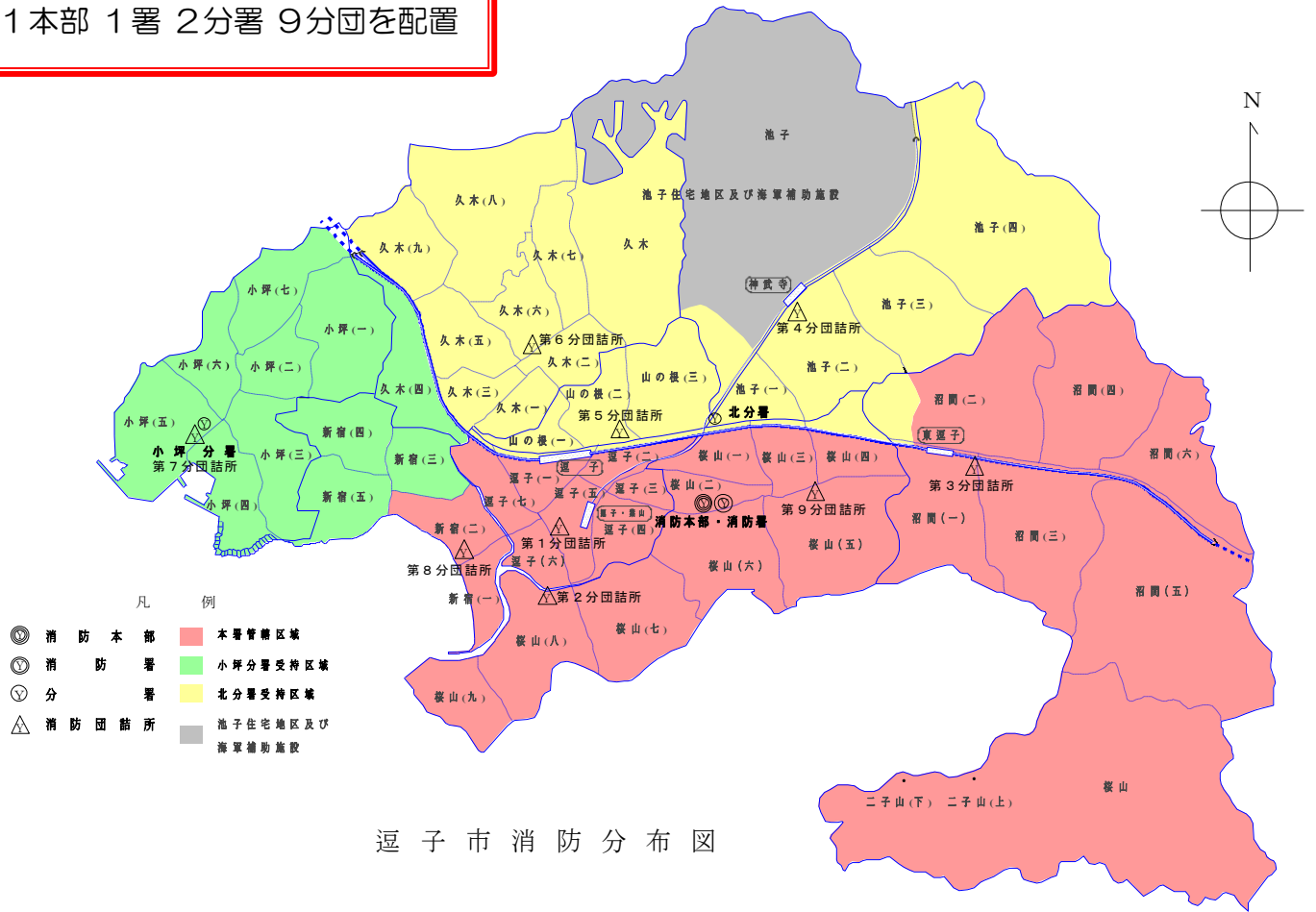


市の木 つばき
学名 Camellia japonica



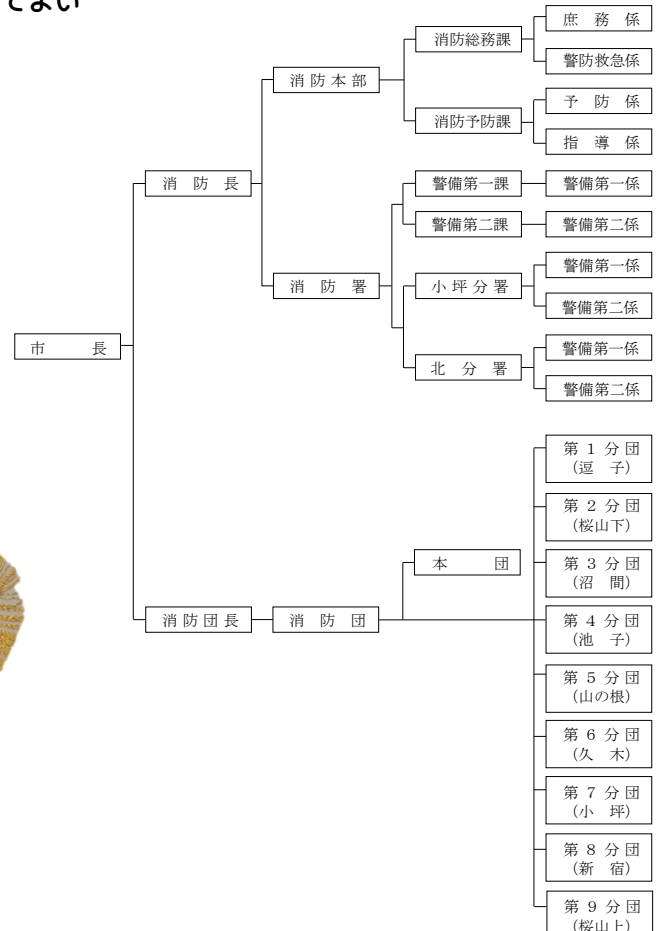
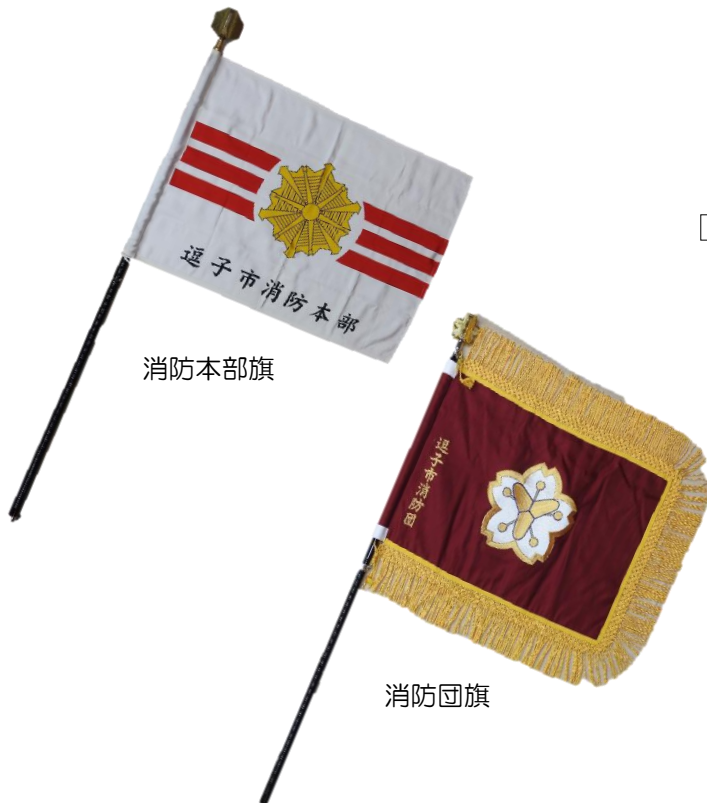
市の花 ほととぎす
学名 Tricyrtis hirta Hook

1本部 1署 2分署 9分団を配置



日々、複雑・多様化する時代潮流に対応するとともに、安全なまちであり続けるための消防、救急体制の充実強化に努めてまいります。

逗子市消防組織図





『ごあいさつ』

逗子市消防本部・消防団が発足して以来、令和2年7月1日で70周年という節目を迎えることができました。

これまで、逗子市の消防行政の発展に大きくご貢献いただきました皆様に深く感謝を申し上げます。

発足以来、組織体制及び施設整備等を含む消防力の強化を進め、昭和・平成そして令和へと時代をたどるなか、技術の革新、生活様式や地球規模での環境問題など社会情勢は大きく変動しております。

特に近年は大規模地震をはじめ、地球温暖化の影響により大型台風や局地的集中豪雨などによる風水害や土砂崩れへの対応が増加していることから、各種災害から市民の生命、身体及び財産を守るためにも、危険シグナルを見逃すことなくますます消防力の充実強化を図らなければならないと考えております。

また、救急需要が増加する昨今、令和の幕開けとともに、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、現在まで世界各国に深刻な影響を及ぼしています。わが国では、2003年の重症急性呼吸器症候群、2009年の新型インフルエンザ、2013年の鳥インフルエンザ、そして今回、新型コロナウイルスの危機に直面し、消防の担う役割がさらに複雑化・多様化すると考えられます。それゆえ、市民の消防に対する期待はより大きなものとなり、消防に課せられた使命は一層重きを加えるものと考えております。

こうした中、幾多の災害や試練を乗り越えるため、「じっくりと現場の声を聞き、現場を見る」ことを忘れることなく、どのようにしたら誰もが安全で安心して暮らすことができるかを考え、「現場第一主義」のまちづくりに取り組んでまいります。

この発足70周年を契機として、市民の皆様が逗子市の消防防災に対する理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

結びに、今後も関係各位の格別なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、発刊のことばとさせていただきます。

逗子市長 桐ヶ谷 覚



『発足70周年を祝して』

逗子市消防本部・消防団発足70周年、誠におめでとうございます。

消防関係者の皆様におかれましては、火災における消火活動や救急出動に加え、台風、豪雨、地震、がけ崩れなどの自然災害における救助や防災活動、さらには事故災害における救助活動など、市民の生命、身体及び財産を守り、その被害を最小限にとどめるため、昼夜を問わず任務に精励されておりますことに心から感謝し敬意を表します。

また、発足から今日までの貴重な記録をまとめられた70周年記念誌が発行されますことは誠に意義深く、編集にご尽力された皆様に心から感謝を申し上げます。

昭和25年7月1日、消防本部・消防団は、逗子町の横須賀市からの分離、独立に伴い発足され、令和2年に70周年を迎えられました。その記念すべき年に、分離独立記念日が制定されたことは、皆様におかれましても誠にめでたきこととお喜び申し上げます。

近年、地球環境や社会情勢の変化により、火災や事故等の災害の様態は複雑かつ多様化する傾向にあり、さらには、大規模地震や記録的豪雨等の予測しがたい自然災害が増加しており、常日頃からの危機意識の保持や防災対策強化の必要性が求められています。また、市民の皆様の備えに対する関心や消防に寄せる期待は大きな高まりを見せ、特に、このコロナ禍においては、消防行政の果たす役割はますます重要なものとなってきております。

今後とも、70年にわたる歳月の中で培われ、受け継がれてきた技術と経験を遺憾なく発揮していただきますようお願い申し上げます。

逗子市議会といたしましても、皆様方の日々の訓練の積み重ねやたゆまぬ努力の下に、私たちの安全で安心な生活が守られていることを胸に刻み、災害に強いまちづくりの実現に向け、全力を注いでまいる所存です。

結びにあたりまして、逗子市消防本部・消防団のさらなるご発展と、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

逗子市議会議長 丸山 浩章



『発足70周年を迎えて』

昭和25年7月に逗子市消防本部・消防団が発足してから、本年で70周年を迎えることができました。ここに至るまでは、幾多の諸先輩の地道な努力の積み重ねと関係各位皆様の御支援・御協力のお陰であり、心より感謝申し上げます。

この間、市民の皆様に親しまれ地域に密着し、社会構造の変化等に的確に対応しながら、消防・防災体制の充実強化を図ることにより、市民の方々の安心安全の確保に大きな役割を果たしながら、発展を遂げて参りました。長い歴史と伝統の中で、この記念すべき節目の年に「逗子市消防本部・消防団発足70周年記念誌」の発刊ができましたことは、極めて意義深く感慨深いものがございます。

さて、逗子市消防本部・消防団が発足した時代は、未曾有の災害等が発生した時代でもあります。昭和25年9月3日には四国東部に台風が上陸し、各地に甚大な被害を及ぼしました。

時代は、昭和から平成へと移り変わり、平成7年1月17日には阪神・淡路大震災が発生し、多くの尊い命が失われました。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による地震・津波災害では、沿岸部の街を津波が破壊するといった大規模な災害であることから、本市からも緊急消防援助隊を派遣し、被災地での人命救助活動に当たりました。

そして、「令和」の新時代を迎えた今、国内の災害形態も社会情勢の変化とともに複雑多様化し、令和2年7月には、逗子市を含めた三浦半島を中心に県内で40件以上の土砂災害が確認されました。さらに、新型コロナウイルス感染症が、現在では世界全ての大陸に拡大し深刻な被害を及ぼしています。

このような時代の変化に主体的かつ的確に対応するため、強いリーダーシップを持つ優れた人材育成がますます急務になります。全ての消防職団員が「被災者の痛みを我がことと受け止め、迅速な消防活動を目指す。」という熱き想いを胸に、逗子市消防本部・消防団の組織を作り上げ、これからもこの想いを継承していく所存でございます。

結びに、本記念誌の発刊に当たり、御協力をいただきました多くの方々に心から感謝を申し上げますとともに、本誌が逗子市消防本部・消防団の70年のあゆみを振り返り、今後の消防行政の在り方を考える一助となり、逗子市民の安心安全に大きく寄与できますことを心より御祈念申し上げます、お礼の言葉といたします。

逗子市消防長 林 行雄



『70周年を記念して』

この度、逗子市消防団が発足されて70周年を迎えることになりました。これもひとえに消防団を運営、継続そして発展してこられた諸先輩方の功績であり、心より感謝申し上げます。また、現役消防団員の皆様におかれましては、平素より昼夜を問わず、消防防災業務にご尽力を賜り深く御礼申し上げます。

消防団は、市町村の消防機関であり、その構成員である消防団員は、他に本業を持ちながらも、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として「自らの地域は自らで守る。」という郷土愛護の精神に基づき、消防防災業務を行っています。これは江戸時代の町火消し、明治時代の消防組以来の伝統であり、この基本精神は現代においても変わることはありません。

火災における消火活動はもとより、台風・豪雨・地震などの自然災害における救助活動や、被害を防ぐ活動など国民の生命、身体及び財産を脅かすあらゆる災害に対処する活動をはじめ、平成16年に制定された国民保護法により、武力攻撃事態等における国民保護の役割も担っています。

この70年の歴史の中で、日本各地では地震、台風、豪雨、火山の噴火など多種多様な災害が発生し、多くの被害を出してきました。本市におきましても多くの災害に見舞われましたが、近年、土砂崩れによる被害が多く発生しています。小坪海岸トンネル、小坪隧道、池子隧道の崖崩れによる通行止めをはじめ、池子2丁目及び小坪4丁目で発生した崖崩れにあっては、尊い命が奪われる痛ましい事故となってしまいました。

「災害は忘れた頃にやってくる。」と言われるなかで、消防団としても詰所の建替え、車両更新等により、装備品の充実を図るとともに、いつ来るか分からない災害のために団員一人一人が日々自己研鑽に励んでいるところであります。

結びになりますが、消防団のために尽くされた故先輩諸兄の皆様感謝し、ご冥福をお祈り申し上げ、逗子市消防本部・消防団発足70周年記念誌の発刊を機に、過去に心を寄せて新しい「未来-100年-」への第一歩と致したく存じます。

逗子市消防団長 **平野 佳一**

逗子消防70年のあゆみ INDEX

ご あ い さ つ	逗 子 市 長	桐 ケ 谷	覚
発足70周年を祝して	逗子市議会議長	丸 山	治 章
発足70周年を迎えて	逗子市消防長	林	行 雄
70周年を記念して	逗子市消防団長	平 野	佳 一

目次

第1部 逗子消防のあゆみ	1
逗子消防発足まで	2
逗子消防70年の軌跡	3
第2部 逗子消防のいま	25
消防庁舎	26
消防車両	28
消防業務	32
救助業務	39
救急業務	44
通信指令室	47
緊急消防援助隊	50
逗子市消防団	54
第3部 今後の展望	67
すべての想定外を想定内へ	68
女性消防職団員の活躍	71
指導救命士制度	73
東京2020オリンピック・パラリンピック	75
未来へ羽ばたけ！新人消防士	76
子どもたちの夢を乗せて	78
第4部 各種資料	79
人口の推移	80
消防職員数の推移	81
消防団員数の推移	82
火災統計・救助統計	83
災害統計・調査統計・救急統計	84
災害の記録	85
歴代消防長・消防団長	89
現職消防職員を紹介	90
地域交流	96
あとがき	